

**「地盤工学のあり方—応用地質学と地盤工学の協働を考える—」委員会
令和3年度 第3回委員会 議事録**

議事録

2021/10/5(水)13:00～16:30 地盤工学会地下A会議室+zoom会議

参加者：(会議室) 末岡, 宮田, 栗原, 今村, 上野, 宇田川, 鈴木, 横田
(zoom) 石井, 笠間, 柿原, 谷, 古木 (議事録作成)

欠席： 海野, 勝見, 菊本, 田中(耕), 田中(淳), 木村, 富樫, 森

以上, 敬称略

1) はじめに

- ・ 末岡委員長：みなさんの協力のもと、提言がまとめられた。日本応用地質学会とも連携を取っている。
- ・ 議事録：変更なし承認。
- ・ 参考資料の紹介。

2) 最終報告書と提言について

【提言①】

- ・ 提言内容について、多くの方に修正いただいた。
- ・ 様式は、地盤工学会のもので統一する。
- ・ 4-5 年を長期と記載されているが、「中期」と表記すべきではないか（上野委員）
- ・ 冒頭、「長期的」は「短期的」に変更する
- ・ 提言の文末、～を協働「を推進する」を追記してはどうか（笠間委員）
- ・ これを受けて、全体の提言の書き方を統一して、伝わる表現としたほうがよい（石井委員）
- ・ 応用地質学者、地盤工学者の英語表記はせずに統一する。
- ・ 提言者は、「地盤工学会関東支部」とする
- ・ 提言の数は少ない方が、インパクトが出る。固められるものはまとめた方がよいと思う（笠間委員）
- ・ 提言①が肝であるため、ここに集約したほうがよいと考えた。提言⑥、⑦は解説部分に追記する。

【提言②】

- ・ 提言①と同じく、語尾を～する、に変更する（宮田委員）
- ・ 地盤構造物の設計概念の再定義、に変更する（栗原委員）
- ・ フローについて、田中委員の指摘を反映する。
- ・ 地質工学→応用地質学と、用語を統一する（宮田委員）

- ・ あわせて地盤工学者→地盤技術者とする
- ・ 工学と地質学の書き分け。工学は設計を含む部分なので、「地質工学」は委員会の意図に沿わない部分があるので、ここでは応用地質学に統一する。ようになるのは、AI 学習のさらなる進化等が必要となる。

【提言③】

- ・ 冒頭に「学会」を追加。長期的→短期的に変更。
- ・ タイトルの「質の高い」が抽象的なので、具体的な用語を適用したい。
→「質の高い・・・」→「設計施工に必要な情報を付加した工学的な地質図の作成」とする（今村委員）
- ・ 最後③の文章について、「教育の取り組み」→「工学的地質図に対する教育」に変更
- ・ 不均質性を表現したいと考える（宇田川委員）
→調査，設計，準備，施工中等いろんな場面で使われる地質図と地質リスクの意味が異なる。解説に具体的に記載する。
- ・ 3 次元的に表現することの重要性。理解するため、相手に伝えるための手段として（上野委員）

・

【提言⑩】

- ・ 提言としてのトーンをあわせる。
- ・ 最低限の基礎知識（高校の地学，工業高校の 1，2 年生の地質）を取得，または最低限の基礎的な学問を勉強するのが必須。

【提言⑨】

- ・ 全体を通じて提言のトーンを合わせる。（笠間先生）
- ・ 実施すること，と，要望の書き方。～してほしい，ではなく，インパクトを強く持たせるために「図る」「可能にする」といった用語を用いる，など。
- ・ 委員会のミッションに基づいた提言を。教育機関に対して，強目のトーンで提言を書く。

【提言⑤】

- ・ タイトルに深化を付ける。
- ・ 地盤工学会(関東支部)に変更する。

【提言④】

- ・ 地盤技術者は国内では生きていけなくなり，海外に活路を求めるのではないか。（末岡委員長）
- ・ 適切な GBR を作るには協議が必要。リスクの負担を明確にする。
- ・ 長期的に取り組むべき内容と思われ，記載順は検討したい。

【提言⑧】

- ・ 地学授業の充実。
- ・ 他学会でも提言されているが，活動されていない。

- ・ 地理総合が高校の必修科目に復活した。
- ・ 長期的を短期的に変更する。
- ・ 一支部と他学会との提言から，本部と他学会の提言とした方がよい。
- ・ 行政は文部科学省を指している。

【序論】

- ・ 提言先に教育・研究機関を入れる。
- ・ 長期的なものをまとめる。例えば，協働できた後の姿。
- ・ 3.1 主な四つの課題と要点の(3)と(4)を入れ替える。

【緒言】

- ・ 勝美先生からの指摘を入れて追加する。
- ・ 防災地質学に変更する。

【全体を通じて】

- ・ 行政，企業，団体に向けての提言をまとめたたたき台を出す。(柿原委員)
- ・ 谷委員は 9/30 をもって退任する。
- ・ 10/20 までに末岡委員長が提言（案）をまとめる。印刷物を配布したい。
- ・ 11 月から関東支部，本部，日本応用地質学会，土木研究所，全地連，土木学会へ説明する。その際，印刷物を持って行く。
- ・ 10 月末までに WG1 と WG2 の最終報告書を提出する。
- ・ 最後に提言と各 WG の報告書をまとめて委員会の報告書にする。

3) おわりに

- ・ 自由投稿は 12 月末まで。
- ・ 次回打ち合わせは，他機関へのプレゼンが終わって意見を徴収してから開催する。
- ・ 12 月に委員会を開催することで調整する。

以上